

農業の高齢化と人手不足を担う
農福連携で自立を支える

豊かな自然が残る南さつま市。広大な農地では、加工原料となる赤シソや高菜、梅、大根、ラッキョウなどが四季折々の美しさを見せてくれます。その広大な農地で6次産業化事業を通し、障害者の就労支援を図っているのが『南風ベジファーム』です。

「ハンデを持った方々を支援するというより、共に働くことで農業と地域を支えることを目指しています。」と語るのは、代表の秦泉寺弘（じんぜんじひろし）さん。20代後半に鹿児島市吉田町で、食品会社を起業しましたが、地域の高齢化が進み農家が減少することを危惧したこと、加工品を作るためには農産物が必要と感じるようになったことから、平成13年に南さつま市の土地を購入し、平成25年に農業と食品加工の6次産業を行う会社をスタートさせました。



農業生産法人 **株式会社 南風ベジファーム**



①ベビーリーフの生産を行っているハウスでは、足が不自由な人でも作業できる高床式砂栽培施設を導入 ②地域のスーパーに出荷する総菜も自社栽培の野菜を使用 ③「一人ひとりの個性を大切にしたい。」と語る『南風ベジファーム』代表の秦泉寺弘さん ④「一緒に働くことの楽しさを学びました。」。明るい表情が印象的な上窪彰さん

当時、地方の人手不足を痛感した秦泉寺さんは、働く意欲のある障害者が多いことを知り、翌年『就労支援事業所南風（アイ）』を設立。自社工場を構えることで、屋内作業も可能になり、働く場所の選択もできるようになりました。

今では、地域のスーパーに自社栽培の野菜を使った総菜を出荷するなど、需要の高まる中食事業も担っています。この3月にはカフェもオープン予定です。「自社の送迎バスを利用して、高齢者の買い物支援、食事支援、健康指導などを一緒に行うことも検討しています」と秦泉寺さん。2019年には、農林水産省発信の地域活性化事例として「ディスプレイ農山漁村（むら）の宝」全国選定にも入りました。

現在同ファームで働くのは、雇用契約を結ぶ就労継続支援A型が20人、非雇用型B型が24人。「最初は環境に慣れることに精一杯でしたが、徐々に一緒に働くことが喜びに変わりました。ここで培ったものを活かして頑張りまします。」と話すのは、一般企業に就職が決まった上窪彰（うえくぼあきら）さん（34歳）です。「卒業しても、いつでも来ていいよ」。秦泉寺さんの温かな視線に見守られ、この春新しい旅立ちを迎えます。

農業生産法人 株式会社 南風ベジファーム
(一般社団法人 南風)

南さつま市金峰町高橋3075-35
TEL.0993-77-3932

